

バラ科 サクラ属

ソメイヨシノ (染井吉野)

Cerasus × yedoensis (Matsum.) Masam. et S.Suzuki

自生環境

植栽 (公園、学校など)

原産地

人工的な栽培種

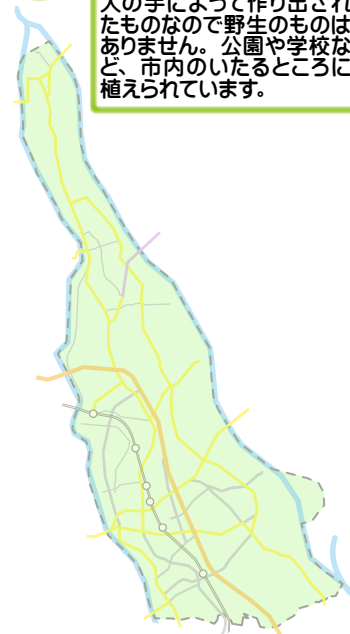
予想される被害

(今のところ特になし)

市内でも広く植栽されていますが、種子繁殖しないため野生化する心配はありません。とはいえソメイヨシノばかりではなく、もっと地域の野生種を見直したいところです。

市内の分布状況

人の手によって作り出されたもので野生のものはありません。公園や学校など、市内のいたるところに植えられています。



特徴

- ☆江戸時代後期、江戸染井村 (今の東京都豊島区) で広められ、花つきのよさと成長の早さから人気に火がつき、こぞって植えられました。現在は北海道の一部と沖縄を除くほぼ全国に植えられ、日本の桜の代表となっています。ソメイヨシノが登場する前は野生種のヤマザクラが日本の桜を象徴する存在でした。
- ☆エドヒガン (C. itosakura) とオオシマザクラ (C. speciosa) の交雑によって誕生した栽培品種と考えられています。開花期は3~4月頃で、葉が出る前に枝いっぱいに薄いピンクの花を咲かせます。花びらは5枚で、萼筒は毛が多く、少しくびれます。
- ☆花後に小さなさくらんぼのような果実ができることがあります。しかしタネに発芽能力は無く、挿し木 (土に枝を挿して発根させる技術) によって増やします。そのため全国にあるソメイヨシノすべてが同じ遺伝子を持った「クローン」です

見納めの日が来るかも

ソメイヨシノの寿命は60年ほどとされ、そろそろ木の寿命が近づいてきています。しかも挿し木で増やしてきたため、みんなまったく同じ遺伝子を持っており、枯れるときはいっせいにとなる可能性があります。そこで後継品種として期待されているのがジンダイアケボノです。これから少しずつソメイヨシノからジンダイアケボノへ、世代交代が行われていくかもしれません。

葉が出る前に
いっせいに開花する



花びらは
5枚で
うすい
ピンク色



萼筒は
少しくびれる

萼や小花柄に
毛がある



ときに果実ができるが、
タネは発芽しない



花が咲き
終わるころに
葉が出てくる



ひもく
皮目

がくとう
萼筒

萼
がく

しょうかへい
小花柄

樹皮は横縞や
横長の皮目が目立つ



葉は秋に
紅葉する



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

